

聞き手

池崎大輔
さん

ウィルチエアーラグビー日本代表

ゲスト

鈴木おさむ
さん

放送作家・タレントなど

1/2



ウィルチエアー(車いす)ラグビーの日本代表選手である池崎大輔がゲストとさまざまなことを語り合う本企画。今回は、マルチに活躍する鈴木おさむさんを迎え話を聞いた。

「常に目の前の人を楽しませたい」

池崎 鈴木さんは放送作家、映画監督、小説家と様々な顔をお持ちですが、小さい頃はどんなお子さんだったんですか。

鈴木 とにかく好奇心旺盛でした。実家が自営業でいつもたくさん大人の大人に遊んでもらっていたので、いろんな知識を得て、興味を持ちやすい環境だったんです。目の前にいる人を面白がらせたいという気持ちは小学6年生から中学生の間で培われたように思います。

池崎 ほんなことがきっかけで？

鈴木 小学6年生の時に生徒会長になって、新しいことに取り組もうと月1回の活動報告の時に芝居をやってみたらすごくウケたんです。中学では先生の反応が面白くて2年間毎日、日誌を書き続けました。友達のことを書いた小説が新聞に載ったこともありまして。どんな形であれ自分が創ったものを人が面白がってくれるということにすごくやりがいを感じたんです。

池崎 まさに今、鈴木さんがやっていらっしゃるこの原体験ですね。

鈴木 はい。その後、高校生の時に放送作家の存在を知って、そうしたことができるんじゃないかなと思ったのが、この世界へ進んだきっかけです。

池崎 放送作家として苦労したことや、成功の秘訣などありますか？

鈴木 駆け出し時代はもう寝る間もないくらい働きましたね。とにかくたくさん企画を出すんです。1案だけ出すと答えがイエスカノーになってしまうけど、10案出すとその中からどれかを選んでもらいやすいんです。その結果から自分も学んで、ヒット率をあげていくことにもつな

げられたと思います。

池崎 僕も鈴木さんが作る番組のファンですが、放送作家だけでなくさまざまなジャンルに挑戦されていますよね。

鈴木 僕は何かを思いついたらやりたい。面白いと思ったことや興味を持ったことをみんなに伝えたい気持ちも強い。その表現形態にはこだわりません。やりたいことを表現するのにふさわしい方法でやっていきたい。今、少女漫画の原作にもチャレンジしてらんです。「子ども格差」という難しいテーマで、物語を書くのはしんどい作業なんです。でも、やるからには漫画家として売りたいと本気で思うし、小学生に「面白い」と思わせたいという気持ちがめちゃくちゃ湧いてくるんです。

池崎 「好奇心」と「発信したい」という気持ちが鈴木さんのバイタリテイの源なんですね。

鈴木 おさむ
すずき おさむ

1972年、千葉県生まれ。放送作家として多数の人気バラエティーの構成を手掛けるほか、映画・ドラマの脚本、エッセイや小説の執筆、ラジオパーソナリティー、舞台の作・演出など多岐にわたり活躍。

池崎 大輔
いけざき だいすけ

1978年、北海道生まれ。車いすバスケットボールから2008年、ウィルチエアーラグビーに転向。10年4月、日本代表に選出。16年、リオパラリンピック銅メダル。18年、世界選手権優勝。三菱商事所属。

THE NEXT

～ 未来を創る人たち ～

聞き手

池崎大輔 さん

ウィルチエアーラグビー日本代表



ゲスト

鈴木おさむ さん

放送作家・タレントなど

2/2



「面白い」は人を惹き付ける

池崎 (前回の記事にて) 鈴木さんはいつも何にかを「伝えたい」という気持ちがあつて、そのために最も有効な方法を考えているというお話を聞いていました。僕もパラスポーツの魅力を多くの人に伝えたいと考えているのですが、どう発信したらいいと思いますか。

鈴木 僕ももっとパラスポーツは「面白いもの」と思ってもらっていいと思うんです。「感動を与えるもの」だけではなくてね。例えばもっと口が悪かったり、ぶつとんだキャラクターの選手が出てくるとか(笑)。池崎さんのようなスター選手にもぜひ一歩踏み出して欲しいですね。

池崎 以前「障がい者スポーツシンポジウム」で一緒にした時に、鈴木さんは「ブームになることが大切」とおっしゃっていましたね。

鈴木 人気者がいてブームになることで、その世界の間口が広がると思うんです。5年前はパラスポーツを「面白い」と言う人不謹慎だと思われる空気がまだあつたと思う。でも今はもう少しフラットになってきていると感じます。突然ですが池崎さんはモテますか？

池崎 男性ファンが多いですかね(笑)。でも、僕がパラスポーツを始めたきっかけは「モテたい」でした。

鈴木 池崎さんがそういう発言をすると、障がいのある人や子どもたちが「モテたい」という気持ちでパラスポーツにチャレンジできる。

池崎 そういう雰囲気広がってくれるのは嬉しいですね。障がい者にとつてスポーツをするというのはたしかにハードルも高い。でも、特に子どもたちには躊躇せずチャレンジして欲しい。僕は試合で結果を出すことが一番だと思つていますが、今日お話をして、「面白い」と思ってもらえるようなパフォーマンスというの意識していきたいと思えました。

鈴木 勝ちへのこだわりとかプレーのすごさも、面白さにつながると思うんです。「面白さ」というのは大きな「魅力」ですよ。

池崎 鈴木さんの今後の夢は何ですか？

鈴木 日本人なら誰でも知っているくらいの特ダヒットを飛ばすこと。テレビでも漫画でも形にはこだわりませんが、きっと日々なにかを作り続けていると叶えられない。あれこれやりすぎて叩かれることもありすが気にしてはいられない。パラスポーツもそうだし、自分が知った色々な世界の「面白い」を発信し続けていきたいです。

鈴木 おさむ
すずき おさむ池崎 大輔
いけざき だいすけ

1972年、千葉県生まれ。放送作家として多数の人気バラエティーの構成を手掛けるほか、映画・ドラマの脚本、エッセイや小説の執筆、ラジオパーソナリティー、舞台の作・演出など多岐にわたり活躍。

1978年、北海道生まれ。車いすバスケットボールから2008年、ウィルチエアーラグビーに転向。10年4月、日本代表に選出。16年、リオパラリンピック銅メダル。18年、世界選手権優勝。三菱商事所属。